

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

県・市・私	岐阜県立	学校名	海津明誠高等学校
項目 該当する項目1つ 以上に○を付ける	○	① 産業界や地域団体等との連携により、地域資源（恵み）を発見・活用する実践	
	○	② 地域を学習のフィールドとし、地域の課題を発見・解決する実践	
	○	③ グローバルな視点を持ち、地域課題解決型の探究的な学習を推進する実践	
	○	④ 自治体や、高等教育機関、企業等との協働により地域の魅力を知り、課題を発見・解決する実践	
活動のねらい	主題「海津明誠高校の「魅力」を全国に！」 副題 ～地域の皆様にも届いて欲しい！「本校の溢れる魅力」～		

【本教育実践の学校の思い】

・本校は、地域の少子化の流れもあり、入学志願者の急減がここ4～5年続いている。昨年度の高校入試（令和7年度入試）において、発表された入学志願者の倍率も、普通科定員90名に対し0.19倍であった。また、全科（ビジネス情報科、生活デザイン科も含めて）の倍率も0.38倍であり、学校の元気のなさが高校入試の入学志願者の数字（倍率）で増幅されており、校内の教員間、または一部の生徒も含めて強い問題意識がある。そのような現状を踏まえ、学校の悩みや課題の大きな一つは、本校の教育活動の「魅力」が地域の皆様（中学校3年生等も含めて）に十分に伝わっていないことである。と考えた。本教育実践は、本校の多様な地域連携活動の中でも、地域のみならず、全国に本校の「魅力」がたく長く届いた実践例である。また、本校の「魅力」が地域や全国に届くだけでなく、「ふるさと海津全体」が、活性化して欲しいという願いを込めて、本表彰に応募することにした。前述の願いが実際に地域や全国に届いた「海津しか勝たん」（ビジネス情報科）、「届けよう、服のチカラ、プロジェクト」（生活デザイン科）、この二つの実践の詳細を紹介するとともに、今年度から来年度にかけて「ふるさと海津」を踏まえ拠点校として計画している全体像「海津明誠高校のこれからの在り方」の概要も紹介する。

【海津しか勝たん】

本教育実践は、3年生ビジネス情報科の生徒が課題研究の一環として、海津市の現状を踏まえ、研究・発表されたものである。この課題研究された「海津しか勝たん」の取組は、「探究学習が未来を創る2024観光甲子園」（地域探究部門）258チームの中にエントリーされ、予選、準決勝を経て、決勝大会に出場し、準グランプリを受賞した。

☆コンセプト・・・「あなたの地元が遠くの誰かの第2のふるさとになる。ずっと住み続けられるふるさとにしたい。」
別添資料のとおり多様な仮説と情報収集を行い、地域連携事業の実行、仮説の検証、改善を行い、「超帰省」という言葉（概念）に漂着した。友達や同僚を連れて地元に戻る。または地元を案内する。この言葉にふさわしい現状が海津。地域探究の魅力があふれているのが、この「海津しか勝たん」の課題研究である。

1 2 3 4 5 6、新たなTry

友だちの地元へ帰省する。 友だちを地元へ連れてくる。 普通の旅とは逆のプロセス。 まるで帰省したような、 感覚で地域を楽しむ。 日本中に帰る地元がある。 それが、超帰省！	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="margin: 0;">Try 次に取り組みたい活動</p> <p style="margin: 0; color: red; font-weight: bold;">■ 超帰省</p> </div> <p style="margin: 0;">★ 帰省したら行きたい場所をつくる</p> <p style="margin: 0;">★ 魅力的な地元の人と信頼関係をつくる</p>
---	---

【超帰省の言葉（概念）】

